

I. 人間の構造

⇒有形世界である現象世界の縮小体として肉身を創造

⇒無形世界の代表であり主人として立てるために、霊人体を創造

II. 霊界は、厳然として存在

⇒人間の選択権の外にあるのです。良いからといって行き、嫌だからといって行かなくてもよい、そのような世界ではありません。

III. 人間の霊人体と肉身の関係について見るとき、より重要なのは、肉身ではなく霊人体

⇒霊的な基準と肉体的な基準をよく調和させ、霊肉が一つになった完成実体を成して暮してから逝くべき

⇒現象世界であり、有限世界である地上界の人生で、肉身を土台として霊人体を完成させるべき

IV. 霊人体の完成は自動的にやってくるものではありません

⇒真の愛の実践を通して、体と心が完全一体となった人生の土台の上で、初めて完熟した霊人体が結果として実っていく

⇒人間は、肉身をもって暮らす地上界の人生で、完熟した人生、すなわち、この地に天国を成し、楽しく暮らしてから逝ってこそ、自動的に天上天国に入城するようになる

地上界で暮らす間、皆様の一挙手一投足は、このような天の公法を基準として、一つ残らず皆様の霊人体に記録されます

神様が皆様の審判主ではなく、皆様自らが自分の審判官になる

天国行きと地獄行きが、きょうこの時間、皆様の考えと言行で決定されるという事実

V. 霊人体自体が真の愛の人生を主導し、実践できるものではありません

⇒体と心の円滑な授受作用によって展開する肉身の人生を土台とした、真の愛の人生を通してこそ成長し、完熟し、完成するのです

外なる人である肉身の誘惑を果敢に振り切ってしまい、内なる人である良心の道に従って絶対「性」を完成し、人生の勝利を達成すること



人間たる皆様の義務であり、責任